

## 東南アジアでの各種プロモーションについて

### 包装機器展示会でのプロモーションについて

これまで新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催だったプロパックアジアが2年ぶりに完全対面形式で開催されました。プロパックアジアとは、アジア最大の包装業界専門展示会であり、関連する食品機器メーカーの出展も多く、機械技術の発展や最新機器の提案のほか、市場傾向の把握や産業投資にとっても中心的な展示会として位置づけられています。2年ぶりに完全対面形式で開催された同展示会は、2019年開催（出展者数約2000社、来場者数約5万人）よりも少し規模が縮小されたものの、東南アジアをはじめとした諸外国からの来場者で賑わっていました。

会場には、ジャパンパビリオンやシンガポールパビリオンのほか、ヨーロッパからはイタリアパビリオンなど、国ごとの共同ブースが設置されているほか、多くの個別企業ブースが設置されていました。その中に石川県企業様もブースを出展しており、「海外進出以降、この2年ほどを除いて継続出展している。新規顧客はもちろんだが、既存顧客とのさらなる商談の場としても活用」「Face to Faceで直接お話しすることが重要と感じている」など、継続出展や直接展示会に出展することの重要性を伺いました。また、料理に合わせた調理機器をカスタムで製造していることから、現地料理を理解していないと調理機器が作れないため、ローカルの営業担当がローカル企業に密着した形での機器の提案が行われておりました。

また、伺った当日には、現地のインフルエンサーからの取材もあり、海外拠点設置の背景や現地での取り組みについての対談のほか、製造機器などを撮影していました。撮影された動画は近日公開とのことですので、公開されるのを楽しみに待っています。

オンライン開催では機器を直に見ることができず、画面上の情報のみでの商談でしたが、こうしたFace to Faceで、膝を突き合わせて行う商談では実際の目で見て触れることが可能であり、より話が弾むと感じました。また目的を持たず来場された方に対しても、道すがら新たな出会いや発見があるものと考えています。



石川県企業様とインフルエンサーの対談の様子



ジャパンパビリオンブースの様子

## 日系レストランでの石川県産品プロモーションについて

今回は、2012年にシンガポール1号店をオープンし、現在シンガポールに3店舗展開している居酒屋・塚田農場で行われている石川県産品のプロモーションについて紹介させていただきます。

塚田農場は金沢駅前にも店舗があり、ご存知の方も多くいらっしゃるのではないかと思います。私自身、安くて美味しい、雰囲気のある居酒屋というイメージを持っていました。

一方、シンガポールの塚田農場は、20代以上の女性を顧客ターゲットとし、美容・健康ニーズに対応した、コラーゲンたっぷりの鶏がらスープ「美人鍋」が看板メニューで平日でも満席になる人気店となっています。実際お店に伺った時も、夕方6時にも関わらず、すでにローカルのお客様で賑わっていました。

店頭には、石川県プロモーション対象のお寿司のメニューが一番目にはいる場所に置かれており、味はもちろん石川クオリティなので、非常に美味しかったです。こうした人気店での石川県プロモーションを通じてより多くの方に石川を知っていただき、認知向上やインバウンドにつなげて参りたいと考えております。



実際の料理と店頭でのPRの様子

## シンガポールインバウンドの増加について

シンガポールのチャンギ空港利用者数は、新型コロナウイルス感染症が拡大する前の2019年まで、毎年過去最多を更新しており、2019年の空港利用者は約6,830万人を記録しました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で渡航制限が敷かれると利用者数は激減し、2020年は前年比82.7%減の1,180万人、2021年は約305万人の利用となっています。しかし、今年4月1日に新型コロナウイルスワクチン接種完了者に対し、隔離なしの入国が可能となったことでシンガポールチャンギ空港の利用者数が急増しており、シンガポール政府によると、2022年1-6月の利用者数は前年同期と比べ10倍の水準で、コロナ前の水準の28%まで回復したと報道がありました。利用者数の増加に伴い今年9月には閉鎖されていた第4ターミナルの運用を再開するほか、コロナ前と同水準にはまだ戻らないものの、日本を含め次々と国際線の就航再開や増便の発表がされております。

今後益々人の交流が増える中、石川県へのインバウンドと石川県産品の販路開拓の両輪での取り組みを進めて参りたいと考えております。